

平成 2 9 年度愛知県外来種調査の概要

1. 調査の考え方

本県陸域における条例公表種等（県内の生態系に著しく影響を及ぼすおそれのある移入種として県が公表する種、特定外来生物及び特に悪影響の懸念される外来種）について、本調査によって、これらの種が生態系に及ぼす悪影響、県内における生息生育情報、写真情報等を収集・整理し、条例公表種の見直しや防除策の検討を行うための基礎資料とする。

また、県内における外来種の生息生育情報は、「ブルーデータブックあいち 2012」の作成過程において外来種リストの作成及び情報の蓄積がなされているが、その後の新たな外来種の侵入や既知の外来種の分布拡大など、生息生育状況は日々変化しているものと考えられる。このため、本調査によって愛知県内における外来種（国外移入種及び国内移入種、今年度は陸域を対象とする）の生息生育情報（分布情報等）を収集・整理し、外来種リストの更新を行うとともにデータベースとして蓄積することにより、今後の外来種対策（条例公表種の見直しや防除策等）を検討する上での基礎資料とする。

また、将来的には更なる情報の蓄積を行うとともに、「移入種対策ハンドブック」や「ブルーデータブックあいち」の改訂版を作成し、これらの情報を積極的に発信することによって、外来種が及ぼす悪影響に対する県民の意識の高まりにつながり、地域の在来種及びその生態系の保全に寄与することが期待される。

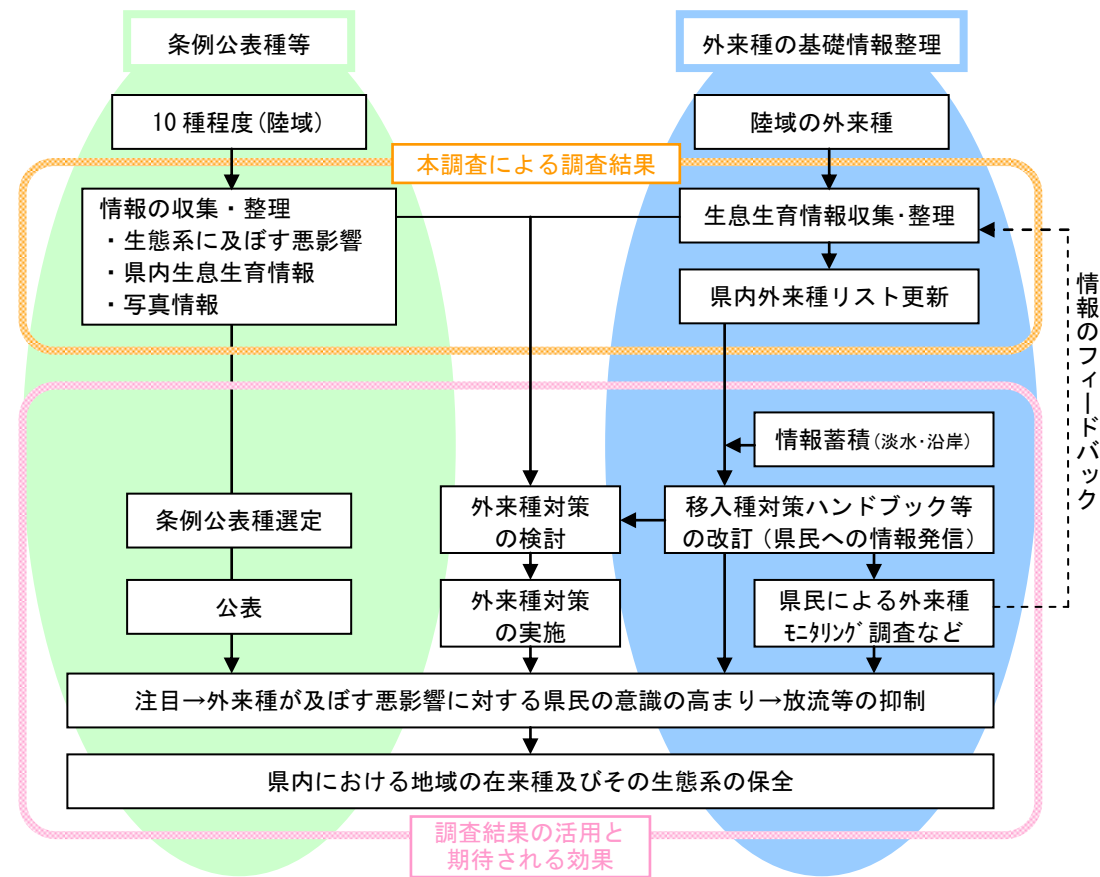


図-1 本調査結果の活用イメージ

2. 調査方法

(1) 条例公表種等に関する情報収集

① 調査対象種

県内に生息生育する外来種（国外移入種及び国内移入種）のうち、陸域における外来種を対象とし、県内の生態系に著しく影響を及ぼすおそれのある移入種（外来種）として「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づき愛知県が公表する種、特定外来生物及び特に悪影響の懸念される外来種の中から10種程度を選定する。

なお、対象とする分類群は、維管束植物・哺乳類・鳥類・昆虫類・貝類を基本とする。

選定した調査対象候補種とその選定理由等を表-1に示す。これらの調査対象候補種について、学識者等の意見があった場合には、必要に応じて変更・追加調査を行うものとする。

表-1 調査対象候補種とその選定理由（条例公表種等）（その1）

調査対象候補種		選定理由等
維管束植物	① ヨシススキ (イネ科)	・大型で強固な株を形成し、土壌の種類を選ばないため、競争や生態系基盤の改変により在来種に悪影響を与えるおそれがある。 ・急傾斜の道路法面の緑化植物として使用されており、道路を通しての分布拡大が懸念される。 ・近年新たに県内での生育が確認されたが、生育状況や分布状況等の情報が不足している。 【他指定等】外来種リスト
	② ニワウルシ(シンジュ) (ニガキ科)	・繁殖力が強く、競争により在来種(河川敷の在来種など)に悪影響を与えるおそれがある。 ・近年の分布拡大等の情報を確認する必要がある。 【他指定等】外来種リスト
	③ ツルニチニチソウ (キョウチクトウ科)	・繁殖力が強く、競争により在来種(林床・草地・河川敷の在来種など)に悪影響を与えるおそれがある。 ・近年の分布拡大等の情報を確認する必要がある。 【他指定等】外来種リスト
	④ ヒメイワダレソウ (クマツヅラ科)	・繁殖力が強く、競争により在来種(草地・河川敷の在来種など)に悪影響を与えるおそれがある。 ・近年の分布拡大等の情報を確認する必要がある。 【他指定等】外来種リスト

表-1 調査対象候補種とその選定理由（条例公表種等）（その2）

調査対象候補種		選定理由
哺乳類	⑤ ハツカネズミ (齧歯目 ネズミ科)	・近年の研究で、在来個体群と遺伝的に異なる外来亜種が存在が示唆され、侵入・交雑のおそれがある。 ・実験動物やペットとして多くの個体が飼養されている。 【他指定等】外来種リスト、世界100
鳥類	⑥ ガビチョウ (スズメ目 チメドリ科)	・競争により在来種(ツグミ類など地上採餌性鳥類)に悪影響を与えるおそれがある。 ・近年、県内で新たな確認事例が増えている。 【他指定等】特定外来、外来種リスト、日本100
昆虫類	⑦ ムネアカハラビロ カマキリ (カマキリ目 カマキリ科)	・競争により在来種(ハラビロカマキリ)に悪影響を与えるおそれがある。 ・近年新たに県内での生息が確認されたが、生息状況や分布状況等の情報が不足している。 【他指定等】なし
	⑧ クビアカツヤカミキリ (クロジャコウカミキリ) (コウチュウ目 カミキリ科)	・幼虫が生木に食入・加害することで樹木を枯死させるおそれがある(サクラ、スモモ、コナラ、ヤナギなど)。 ・近年新たに県内での生息が確認されたが、生息状況や分布状況等の情報が不足している。 【他指定等】外来種リスト
	⑨ フェモラータオオモモ プトハムシ (コウチュウ目 ハムシ科)	・クズを主な食草としているが、同じマメ科の農作物への影響が懸念される。クズは河川敷等に多いため、河川敷を通しての分布拡大が懸念される。 ・近年新たに県内での生息が確認されたが、生息状況や分布状況等の情報が不足している。 【他指定等】外来種リスト
貝類	⑩ オオクビキレガイ (柄眼目 オカチョウジガイ科)	・個体サイズが大きく、農作物への影響が懸念される。 ・海外では他の陸産貝類を捕食することが知られている。 ・近年新たに県内での生息が確認されたが、生息状況や分布状況等の情報が不足している。 【他指定等】外来種リスト

注【他指定等】の凡例は以下のとおり。

特定外来 : 「外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)」により指定された外来生物

条例公表種 : 県内の生態系に著しく影響を及ぼすおそれのある移入種(外来種)として「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づき愛知県が公表した種

外来種リスト : 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(環境省)掲載種

日本100 : 「日本の侵略的外来種ワースト100」(日本生態系学会)掲載種

世界100 : 「世界の侵略的外来種ワースト100」(国際自然保護連合)掲載種

② 調査方法

調査対象種について、主として既存資料調査（文献調査、標本調査）及びヒアリング調査により、生息生育情報等を収集・整理し、電子ファイルに格納する。また、調査対象種のうち、既存資料調査によって十分な情報が得られない可能性がある一部の種については、補完的に現地調査を行うものとする。

調査項目は、原則として以下のとおりとする。

- ・地域の在来種や生態系に及ぼす悪影響
- ・県内における生息生育情報（県内分布状況、生息生育地の環境、生態的特性等）
- ・写真情報（生体写真、標本写真及び生息生育状況等、可能な限り収集に努める）

なお、これらの調査は学識者・NPO 調査員等の協力を得て行うものとする。

③ その他

これらの調査方法については、愛知県が学識経験者等を構成員として設置する「平成 29 年度外来種調査検討会」及び学識者・NPO 調査員等による指導・助言を受けて行うものとする（必要に応じての変更を含む）。

（2）県内における外来種の基礎情報整理

① 調査対象種

県内に生息生育する外来種（国外移入種及び国内移入種）のうち、陸域における外来種を対象とする。

なお、対象とする分類群は、維管束植物・哺乳類・鳥類・昆虫類・貝類を基本とする。

② 調査方法

調査対象種について、主として既存資料調査（文献調査、標本調査）及びヒアリング調査により、分布状況（市町村単位を原則とし、調査対象資料の内容に応じて整理する）及び生息生育情報等を収集・整理し、これを電子ファイルに格納する。

格納する情報は、科名、和名、学名、確認年月日、確認地、確認者名、標本番号及び所蔵機関名（標本による情報の場合）、文献名及び著者名等（文献による情報の場合）、国外移入種・国内移入種の区分、その他（確認個体数、特定外来生物の区分※等）とする。また、必要に応じて関連する種及びその生息生育状況を示す写真情報についても収集を行う。

なお、これらの調査は学識者・NPO 調査員等の協力を得て行うものとする。

※ 対象種が、特定外来生物（外来生物法）、条例公表種（愛知県）、我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（環境省）、日本の侵略的外来種ワースト 100（日本生態学会）、世界の侵略的外来種ワースト 100（国際自然保護連合）に該当するか否かの区分とする。

③ その他

これらの調査方法については、愛知県が学識経験者等を構成員として設置する「平成 29 年度外来種調査検討会」及び学識者・NPO 調査員等による指導・助言を受けて行うものとする（必要に応じての変更を含む）。

3. 調査結果の取りまとめ方

(1) 条例公表種等に関する情報収集

既存資料調査及び現地調査によって収集した調査対象種の生息生育情報等について、種ごとに整理を行い、1種あたり1頁（A4版）程度の概要を記載した文書を作成し、電子ファイルに格納する。

この文書には、「ブルーデータブックあいち2012」に準じた以下の項目を記載するものとする。なお、既に作成されている種については、最新の情報に基づき文章を加筆修正する。

- ・科名、和名、学名、特定外来生物等の区分※1
- ・種の概要、調査対象種として選定した理由
- ・種の形態
- ・分布の概要
- ・生息生育地の環境及び生態的特性
- ・侵入の経緯及び現在の生息生育状況
- ・被害状況及び駆除策と留意点
- ・写真情報（生体写真、標本写真及び生息生育状況等、可能な限り収集に努める）

※1 対象種が、特定外来生物（外来生物法）、条例公表種（愛知県）、我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（環境省）、日本の侵略的外来種ワースト100（日本生態学会）、世界の侵略的外来種ワースト100（国際自然保護連合）に該当するか否かの区分とする。

(2) 県内における外来種の基礎情報整理

既存資料調査等によって収集した調査対象種の分布情報について、種ごとに市町村単位（維管束植物以外：可能な限り平成の大合併前の市町村単位とする）または調査区画単位（維管束植物：愛知県内を58区画に分けた調査区画単位とする※2）での整理を行い、外来種（陸域）の全種リストを作成し、電子ファイルに格納する（表-2・表-3、5頁参照）。

また、調査対象種のうち、特に今後の分布拡大が懸念される種や、地域の在来種や生態系に著しい悪影響を及ぼすおそれの高い種の生息生育情報について、科名、和名、学名、確認年月日、確認地、国外移入種・国内移入種の区分、標本採集者及び所蔵機関名等（標本による情報の場合）、文献名及び著编者名等（文献による情報の場合）、その他（確認個体数、特定外来生物等の区分等）を整理し、データベースとして活用できるよう、電子ファイルに格納する（表-4、6頁参照）。

※2 愛知県内における維管束植物の分布情報は、「レッドリストあいち2015新掲載種の解説」に示されているように、愛知県内を58区画に分けた調査区画単位での蓄積がなされている。

表-4 外来種データベースとりまとめ様式 (イメージ)

分類群	記載者氏名 (入力者)	科名	和名	学名	確認年月日	確認地	確認市区町村 (調査区画)	メッシュコード	移入種区分		特記事項 (確認状況等)	情報源 の種類	①標本情報			
									国外	国内			採集者	同定者	標本番号	所蔵機関名
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	昭和56年11月18日	蒲都市三谷町若宮 愛知くみあい飼料株式会社	蒲都市		○		雌多数	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	昭和57年2月2日	蒲都市三谷町若宮 愛知くみあい飼料株式会社	蒲都市		○		雌雄多数	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	平成7年12月18日	名古屋市港区 名古屋港金城ふ頭	名古屋市港		○		1個体	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	平成8年5月6日	海部郡飛島村東浜 東海団地倉庫(株)敷地内	海部郡飛島		○		1個体	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	平成8年6月23日	海部郡飛島村東浜 東海団地倉庫(株)敷地内	海部郡飛島		○		1個体	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	平成8年7月21日	海部郡飛島村東浜 東海団地倉庫(株)敷地内	海部郡飛島		○		1個体	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	平成8年9月16日	海部郡飛島村東浜 東海団地倉庫(株)敷地内	海部郡飛島		○		1個体	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	平成8年11月3日	海部郡飛島村東浜 東海団地倉庫(株)敷地内	海部郡飛島		○		1個体	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	オダカユウレイグ	<i>Crossopriza lyoni</i> (Blackeall,1867)	平成16年8月28日	豊橋市大岩町字大穴 豊橋市総合運動公園	豊橋市		○		2個体	文献				
クモ	緒方清人	ユウレイグモ	ユウレイグモ	<i>Smeringopus pallidus</i> (Blackwall,1858)	平成9年1月5日	海部郡飛島村東浜 東海団地倉庫(株)敷地内	海部郡飛島		○	○	1個体	文献				
クモ	緒方清人	ウズグモ	ミナミウスグモ	<i>Zosis geniculatus</i> (Olivier,1789)	平成8年11月3日	海部郡飛島村東浜 東海団地倉庫(株)敷地内	海部郡飛島		○		1個体	文献				
クモ	緒方清人	ヒメグモ	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i> Thorell,1870	平成18年9月11日	弥富市楠	弥富市		○		雄1、雌5、幼体3個	標本	緒方清人	緒方清人	1105	緒方清人
クモ	緒方清人	ヒメグモ	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i> Thorell,1870	平成18年10月9日	弥富市楠	弥富市		○		雌5、幼体3個	標本	緒方清人	緒方清人	1150	緒方清人
クモ	緒方清人	ヒメグモ	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i> Thorell,1870	平成20年9月28日	弥富市楠	弥富市		○		雄1、雌5、幼体26個	標本	緒方清人	緒方清人	1214	緒方清人
クモ	緒方清人	ヒメグモ	ハイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i> C.L.Koch,1841	平成7年12月17日	名古屋市港区	名古屋市港		○		雌1個体	文献	緒方清人	緒方清人	1218	緒方清人

注:他指定区分の略号は以下の通り。

条例:条例公表種(愛知県)、特定:特定外来生物(外来生物法)、外来種リスト:我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(環境省)、日100:日本の侵略的外来種ワースト100(日本生態学会)、世100:世界の侵略的外来種ワースト100(国際自然保護連合)

(下表に続く)

(上表からの続き)

②文献情報		③写真情報				④目撃情報		他指定区分								
資料名	掲載文献名	著編者	同定者	発行者	発行年	撮影者	同定者	写真番号	所蔵機関名	確認者	確認者所属等	条例	特定	外来科	日100	世100
ATYPUS No.80	八木沼健夫, 1982. オダカユウレイグモ日本で発見	田中穂積	八木沼健夫	八木沼健夫	1982年8月21日											
ATYPUS No.80	八木沼健夫, 1982. オダカユウレイグモ日本で発見	田中穂積	八木沼健夫	八木沼健夫	1982年8月21日											
蜘蛛 No.28	村上 勝, 1995. オダカユウレイグモ名古屋港で採集	村上 勝	村上 勝	中部蜘蛛懇談会	1995年12月31日											
蜘蛛 No.30	須賀瑛文・小笠原幸恵, 1998. 愛知県飛島村・東海団地倉庫(株)敷地内のクモ~1年	須賀瑛文・板倉泰弘・小笠原	須賀瑛文・小笠原	中部蜘蛛懇談会	1998年2月11日											
蜘蛛 No.30	須賀瑛文・小笠原幸恵, 1998. 愛知県飛島村・東海団地倉庫(株)敷地内のクモ~2年	須賀瑛文・板倉泰弘・小笠原	須賀瑛文・小笠原	中部蜘蛛懇談会	1998年2月11日											
蜘蛛 No.30	須賀瑛文・小笠原幸恵, 1998. 愛知県飛島村・東海団地倉庫(株)敷地内のクモ~3年	須賀瑛文・板倉泰弘・小笠原	須賀瑛文・小笠原	中部蜘蛛懇談会	1998年2月11日											
蜘蛛 No.30	須賀瑛文・小笠原幸恵, 1998. 愛知県飛島村・東海団地倉庫(株)敷地内のクモ~4年	須賀瑛文・板倉泰弘・小笠原	須賀瑛文・小笠原	中部蜘蛛懇談会	1998年2月11日											
蜘蛛 No.30	須賀瑛文・小笠原幸恵, 1998. 愛知県飛島村・東海団地倉庫(株)敷地内のクモ~5年	須賀瑛文・板倉泰弘・小笠原	須賀瑛文・小笠原	中部蜘蛛懇談会	1998年2月11日											
蜘蛛 No.38	貞元己良, 2005. 静岡県と愛知県のクモ採集記	板倉泰弘・村上 勝	貞元己良	中部蜘蛛懇談会	2005年8月31日											
蜘蛛 No.30	須賀瑛文・小笠原幸恵, 1998. 愛知県飛島村・東海団地倉庫(株)敷地内のクモ~2年	須賀瑛文・板倉泰弘・小笠原	緒方清人	中部蜘蛛懇談会	1998年2月11日											
蜘蛛 No.30	須賀瑛文・小笠原幸恵, 1998. 愛知県飛島村・東海団地倉庫(株)敷地内のクモ~3年	須賀瑛文・板倉泰弘・小笠原	須賀瑛文・小笠原	中部蜘蛛懇談会	1998年2月11日											
蜘蛛 No.29	緒方清人・小笠原幸恵,1997. 名古屋市の真正クモ類について(3)	須賀瑛文他	緒方清人	中部蜘蛛懇談会	1997年2月11日											

注:様式のイメージのため、内容(データ)は実際と異なる。